

循環器画像診断レポート

A	B	C	D	E	F	内容
循環器画像診断						レポートシステム（循環器レポート）
						医用画像情報統合管理システム（システム全体共通事項）の項を満たした上で、各システムで詳細な記載が必要な事項を以下に記載する。
運用						
						循環器レポートを記載する診療科は循環器内科、を想定している。
						循環器レポートのデータを用いて臨床研究を行うため、データの検索、情報抽出が容易なだけでなく、新たな研究を開始するに当たって必要な項目などが容易に追加できる必要がある。
						循環器レポートのデータを用いて学会へのデータ登録や専門医のライセンス更新に必要な情報の抽出を行う。
システム構築						
						現在当院で稼働しているレポートシステム（GE社製 Xi II）に保存されたカテレポート累計22,609件、CTレポート340件、エコーレポート45,536件（2014年7月現在）のテキストデータを移行すること。
						テキストデータはFileMakerレポートシステム該当項目に格納し、参照可能であること。
						現在当院で稼働しているドキュメントシステム（GE社製 CDS）に保存された73,706件、非圧縮約400GB（2014年7月現在）のPDFレポートデータを移行すること。
						移行したPDFレポートデータも電子カルテ端末で参照可能であること。
連携機能						
動画PACS						
						循環器レポートのリストから動画PACS Viewerが起動できること。
						解析結果は解析終了後、転記することなく数値、及び画像取込めること。
次期電子カルテ						
						次期電子カルテシステムの端末に相乗りして利用できること。
オーダーリングシステム						
						既存RISまたはオーダーリングシステムから心臓血管撮影関連・心臓関連静止画オーダ情報を受信しレポートの記載が可能なこと。
						既存生理検査システムまたはオーダーリングシステムから心臓超音波関連オーダ情報を受信しレポートの記載が可能なこと。
						次期RISから心臓血管撮影関連・心臓関連静止画オーダ情報を受信しレポートの記載が可能機能を有すること。
						次期RISの受付・実施・中止などのステータス情報を受信しスケジュール一覧などに反映できる機能を有すること。
						次期生理検査システムから心臓超音波関連オーダ情報を受信しレポートの記載が可能なこと。
						次期生理検査システムの受付・実施・中止などのステータス情報を受信しスケジュール一覧などに反映できる機能を有すること。
患者ポータル						
						患者ポータルシステムの構築完了時点で、既に保管されている旧循環器レポートシステムで生成されたPDFデータおよび、新循環器レポートシステムで生成されたPDFデータを、患者ポータルシステムに自動的にデータ移行が可能であること。
						循環器レポートの確定のタイミングでPDFファイルを患者ポータルへ出力すること。
						患者ポータルからURL連携などで画像レポートを起動するための情報を送信できる機能を有すること。
ふじのくにねっと						
SS-MIX						
						SS-MIX拡張ストレージへPDF化されたレポートを出力できる機能を有すること。ただし本機能は導入時点では有効にしない。

循環器画像診断レポート

	SS-MIX拡張ストレージへの出力運用開始時点で、既に保管されている旧循環器レポートシステムで生成されたPDFデータおよび、新循環器レポートシステムで生成されたPDFデータを、SS-MIXに自動的にデータ移行が可能であること。
統計情報管理	
	DWH
	病院が指定する循環器レポートに格納されたデータを送信できること。送信対象となるデータは少なくとも画面に表示される情報すべてとし、その他は病院と協議のうえ設定すること。
	DWHへの送信は、病院が指定する期間のデータを毎日夜間の定期処理により出力できること。例：本日から過去3ヶ月間のデータを毎日送信し、DWHで追加更新処理をする。
	DWHへの送信処理により通常運用への処理速度の遅延などの影響が生じないこと。
	SS-MIX
	SS-MIXにJAHIS標準レポート出力項目のデータを出せるようにすること。
	日本循環器学会がカテレポートに関するJAHIS標準レポート出力項目決定した後に、SS-MIX拡張ストレージにPDF化されたレポート及びそれに準拠したデータを新動画レポートシステムから出力できる機能を有すること。
装置・医療機器	
	ポリグラフの数値・文字データ（NIBPなど）をレポートに取り込めること。
	超音波装置の数値・文字データ（DICOM SR）をレポートに取り込めること。
内部機能	
	基本機能
	レポートティングシステムはデータベース機能を有すること。
	データベースはFileMaker Proを使用すること。
	データベースフォームは、心臓カテーテル検査、心臓カテーテル予定表・呼び出しシステム、看護台帳、エコー検査、CT台帳、MRI台帳、RI台帳、心臓リハビリ台帳を有すること。
	入力項目内容を当院の要望に合わせて修正できること。
	入力項目内容の修正は納入後1年は可能な範囲でレイアウトや項目の修正を保守の範囲で行うこと。
レポート機能	
	稼働検収後においても、保守契約締結を条件とし、レポートメンテナンス作業をリモートでおこなうこと。
	データベース入力内容がレポートとして、電子カルテで参照できる機能を有すること。
	FileMakerからも動画PDFレポートを参照できること。
	レポートの完成度を他者が評価する機能を有すること。
	レポートの任意の画面で検索ができること。更に検索結果を保持して一覧画面を開くことができること。この方式により検索したレポートを次々と見られること。
	レポートは任意の項目で検索ができ、任意の項目をエクセル出力できること。
	定型文を登録し入力支援できること。
心臓カテーテルレポート	
	心血管解析ソフトウェアで解析後、保存された解析結果の数値データが自動的に登録可能であること。
	レポートは任意の項目で検索ができ、病変単位、または検査単位にエクセル出力できること。
	J-PCI/J-EVT/JCDTRの入力項目は入力必須項目として識別できること。
	レポートを認証する際に病院が指定する入力項目について未入力の場合はエラーを表示すること。

循環器画像診断レポート

	レポートを認証するとJ-PCI/J-EVT/JCDTRのフォーマットのレポートと病院指定のフォーマットのレポートができること。
	Syntax Scoreはレポートに組み込まれていて、レポートを入力すると自動計算すること。
	EuroScoreはレポートに組み込まれていて、レポートを入力すると自動計算すること。
	EP Labの波形キャプチャー画面、3Dマッピング画像の静止画データをレポートに取り込めること。
	ペースメーカー、ICD、CRT等について植込みデバイス専用のファイリング機能を有しており、植込み・交換時、フォローアップ等を患者単位で管理できること。
	心臓超音波レポート
	心エコー、経食道エコーレポートを備えること。
	再検査の場合は、検査履歴から前の検査レポート、及び画像を開くことができること。
	前の検査レポートの内容をコピー&ペーストできること。
	計測値は前回検査との比較表示ができること。
	Wall Motion Scoring機能を備えていること。
	液晶ペンタブレットを備えていてシェーマが描画できること。
	基本シェーマを登録でき選択して描画できること。
	前回検査で描画した図を今回検査のレポートに持って来て再修正できること。
	スケジュール管理
	予定表
	オーダ情報を元にスケジュール管理が可能なこと。
	部屋、時刻、順番、担当医師、担当看護師、担当技師、予定デバイス、予定手技、コメントなどが入力できること。
	部屋割と時間割はドラッグ・アンド・ドロップの操作でできること。
	スケジュール表で、更新情報も含めて病棟と血管撮影室のスタッフ全員で閲覧できること。
	スケジュール表への入力操作は権限付与された者だけが行えること。
	患者呼出し機能
	カテ室の部屋割・変更の機能を有すること。
	患者様の呼び出しコールの機能を有すること。
	患者様のお迎えコールの機能を有すること。
	病棟に設置したパトランプ等で送迎情報の更新があったことを通知できること。
	リアルタイムの情報共有できるよう、テキストチャット機能を有すること。